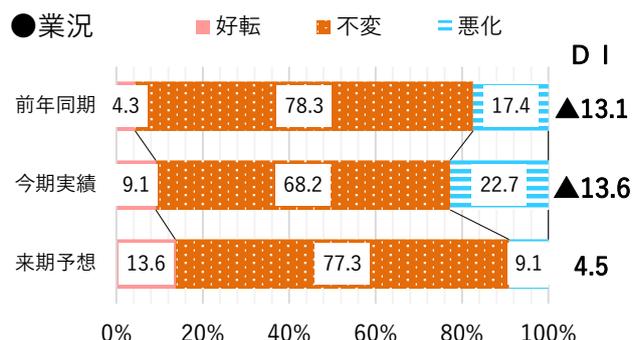


建設業

業況、売上、採算

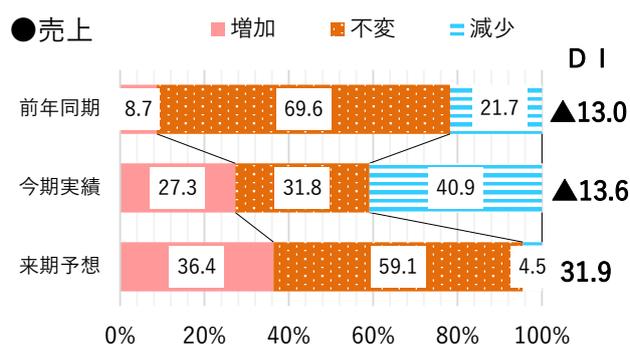
今期（2022.7～9）の業況判断DIは▲13.6で、前年同期(2021.7～9)と比べ0.5ポイント低下しました。

来期（2022.10～12）は、業況がプラスに転じると予想しています。



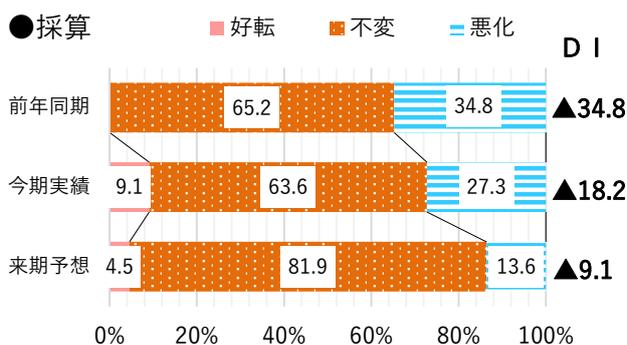
今期の売上高DIは▲13.6で、前年同期と比べ0.6ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に増加し、プラスに転じると予想しています。

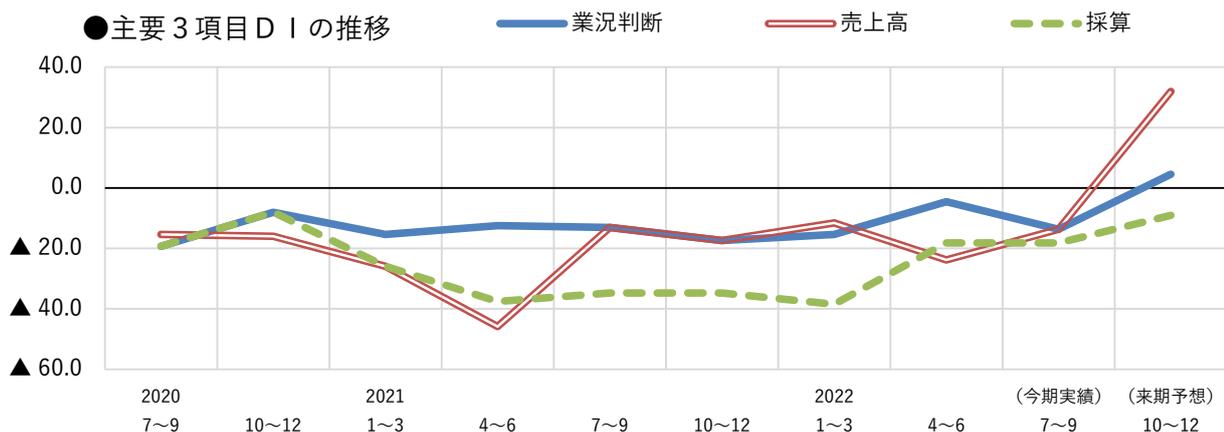


今期の採算DIは▲18.2で、前年同期と比べ16.6ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



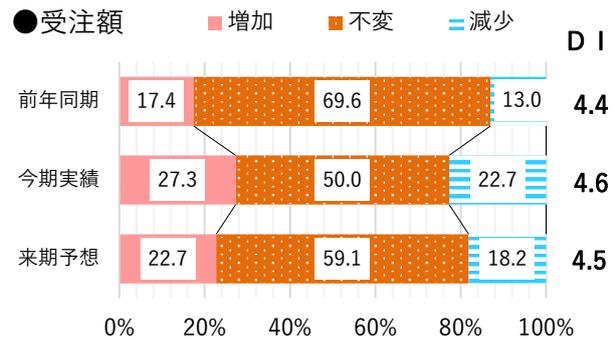
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

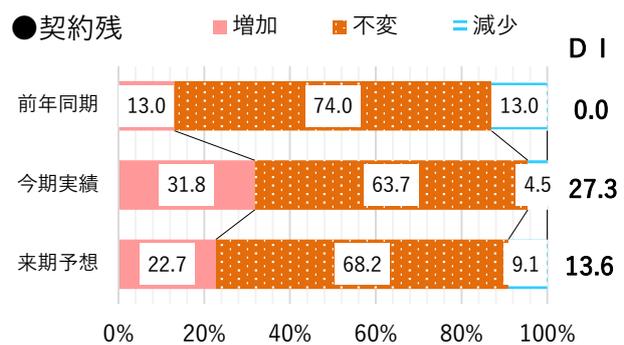
今期の受注額DIは4.6で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期は、受注額のほぼ横ばいを予想しています。



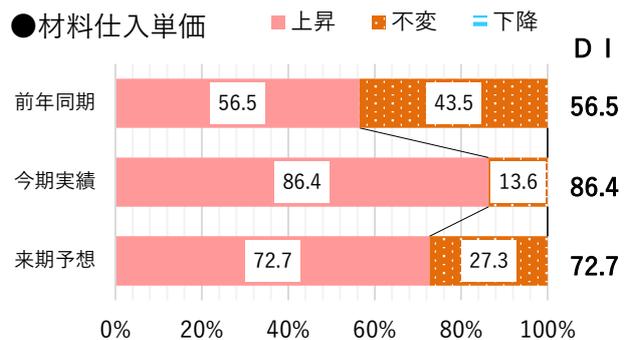
今期の契約残DIは27.3で、前年同期と比べ27.3ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは86.4で、前年同期と比べ29.9ポイント上昇しました。

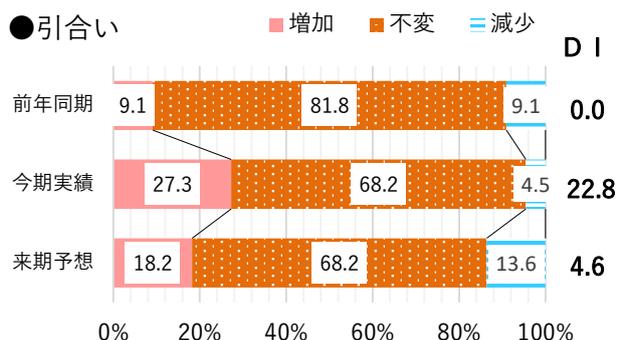
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは22.8で、前年同期と比べ22.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

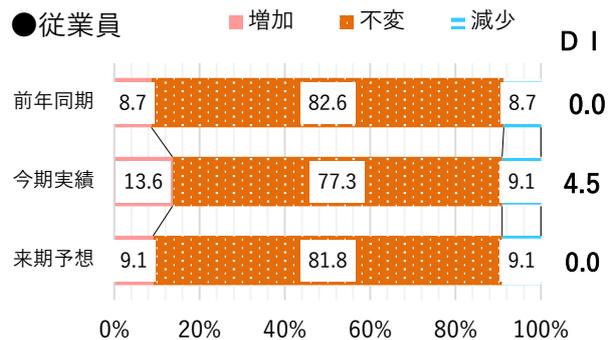
来期は、引合いの増加傾向が弱まると予想しています。



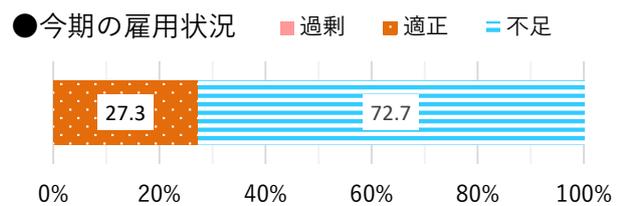
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.5で、前年同期と比べ4.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は27.3%、不足していると回答した企業の割合は72.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、建設業全体の50.0%を占めています。

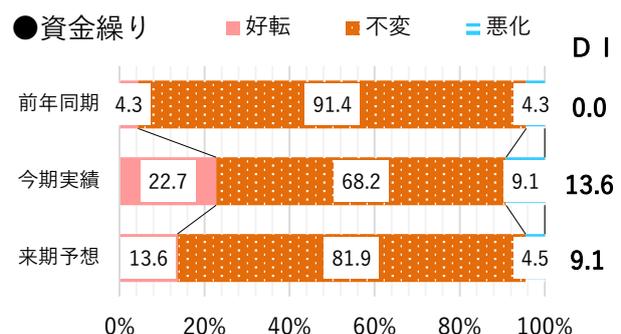
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	11
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

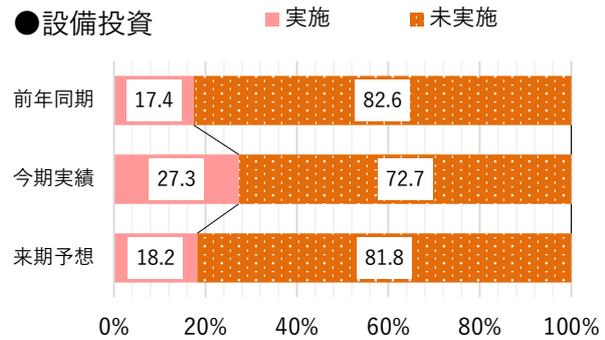
今期の資金繰りDIは13.6で、前年同期と比べ13.6ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



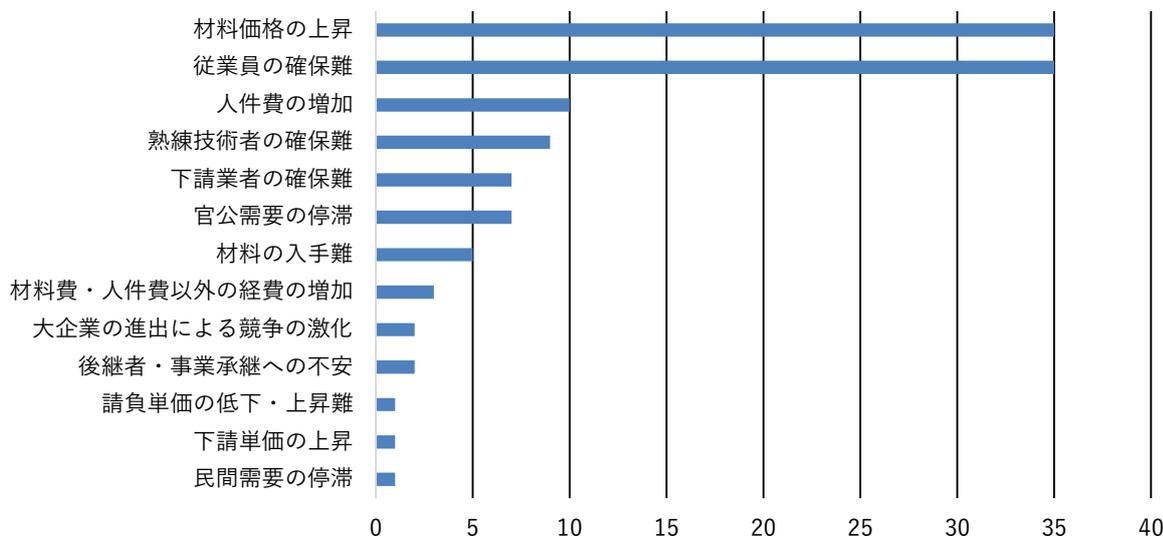
設備投資を実施した企業の割合は27.3%で、前年同期と比べ9.9%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「建設機械」、「OA機器」、「福利厚生」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は18.2%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「材料価格の上昇」、「従業員の確保難」（同位）、2位が「人件費の増加」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 原材料高と円安の影響が拡大しており、個人客への販売価格の転嫁に苦労している。（一般土木工事業）
- 売上は多少増加したが、材料価格の高騰によって利益はあまり伸びなかった。（一般土木工事業）
- 仕入単価の上昇分を請負単価に転嫁できず、経営を圧迫している。（一般土木工事業）
- 売上は増加した。サッシやガラスの仕入単価が上昇した。（職別工事業）
- 人材不足のため売上が減少した。（職別工事業）
- 昨年より受注額が増えた。（一般管工事業）
- 受注が減少し、売上も減少した。（造園業）
- 完成工事額と資金繰りは好転したが、仕入単価が上昇しており、業況は不変だった。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 人材不足で、厳しい状況が予想される。インドネシア人を雇用する予定だ。（職別工事業）
- 受注物件が多く完成まで出費がかさむため、一時的に資金繰りが悪化する。（一般管工事業）